

つたえる

お知らせ 令和元年度調査研究発表会を開催します

研究発表内容

「市内のため池の現況
[養殖水処理センター再稼動に伴う中川運河の水質の変化]
[中川運河の季節変化]
[名古屋市内産魚類中の残留有機汚染物質(POPs)の環境調査]
[光化学スモッグ注意報発令日におけるPM2.5高濃度現象の解析]」

日 時 令和2年2月7日（金）13:45～16:45
場 所 愛知芸術文化センター 12階アートスペースA
(名古屋市東区東桜一丁目13番2号)
定 員 100名（先着順）
参 加 費 無料
申込方法 電話、FAX、E-Mailいずれかの方法で下記までお申込み下さい。
令和2年1月14日（火）から受付を開始します。

なごや環境大学共育講座を開催しました

なごや環境大学共育講座の一環として、11月の2、9、16日の3日間、「実験！体験！かなしうラボ」というテーマで講座を開催しました。参加者の皆さんには、研究員と環境分析等を行いました。また、研究員との意見交換も活発に行われました。

11月9日（土） 「PM2.5と気候変動の関わりを考える」

11月16日（土） 「最強？！マムシをして観察する」

11月2日（土） 「きれいな水って？～にごりについて考える～」

当センターの研究員が表彰されました！

大気環境学会論文賞 研究員 池 盛 文数
「石英繊維ろ紙に捕集したPM2.5中の有機トレーサー成分におけるガス吸着の影響」
PM2.5の発生源特定に有用な技術・調査報告として高く評価され、本賞を受賞しました。

施設見学受付しています

編集・発行 名古屋市環境科学調査センター
〒457-0841
名古屋市南区豊田五丁目16番8号
TEL 692-8481 FAX 692-8483
電子メール a6928481@kankyo.yokoku.city.nagoya.jp
ホームページ <http://www.city.nagoya.jp/kankyo>
環境科学調査センター サイト内検索

2020年1月



洗剤による水の汚れを調べています

①はじめに

皆さんは、手が汚れたときにどうしますか？また、食事をした後に汚れた食器はどうしますか？おそらく、石けんを使って手を洗ったり、洗剤を使って食器を洗ったりだと思います。一般に、汚れを落とす目的で使う石けんなどに含まれる化学物質のことを、【界面活性剤】といいます。界面活性剤は、皆さんにとって最も身近な化学物質の一つであると言えます。この界面活性剤は、大量に川などに流れ込むと泡立ったり、生息する魚などの生き物に悪影響を与えることがあります。

②界面活性剤が油汚れを落とす仕組み

界面活性剤によって、水中で油汚れが付着した食器から油汚れが落ちる仕組みを表した模式図を、図1に示しました。

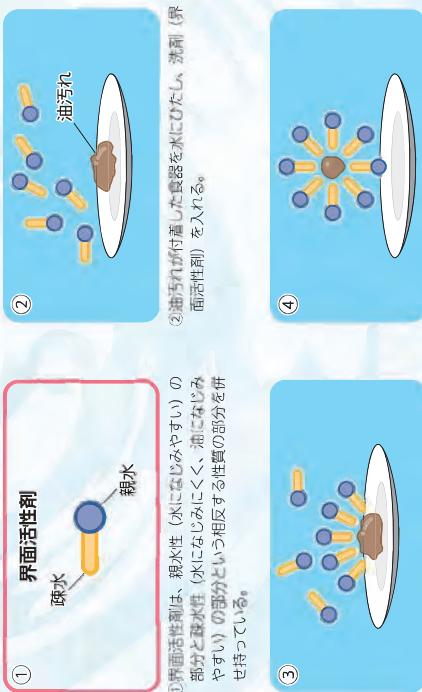


図1 界面活性剤による汚れを落とす仕組みの模式図

④水環境におけるノニルフェノールエトキシレートの分解および毒性

ノニルフェノールエトキシレートは、ノニルフェノールを原料として製造されています。ノニルフェノールは、国内において年間で約6,000トン製造されおり、製造量の60%程度がノニルフェノールエトキシレートの原料として使用されています。さて、ノニルフェノールエトキシレートは、排水として河川などに流れ込むと微生物の作用などにより原料であるノニルフェノールへと分解されることがわかっています（図2）。このノニルフェノールは、ノニルフェノールエトキシレートと比較して毒性が強いことが知られています。これがなぜ私たちに影響を及ぼすことにあり、生体に障害や有害な影響を引き起こす作用があります。



図2 ノニルフェノールエトキシレートの合成と分解

⑤環境基準

こうした中で、我が国では、「公共用水域における水生生物の健全に係る環境基準」^{**}として、ノニルフェノールが定められています。名古屋市においても、ノニルフェノールについて、荒子川ポンプ所（荒子川）や東海橋（中川川運河）などの市内7ヶ所をはじめ複数の河川や海域において、水質環境濃度の測定を定期的に実施しています。

*2 水生生物に対する生態や生息環境を健全することを目的として制定された基準。ノニルフェノールに加えて、【全塩錠】と【直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム】が定められています。

⑥ノニルフェノールの水質環境濃度

表1に、市内7ヶ所において、毎月採取した水質中のノニルフェノールの平均濃度を示します。ノニルフェノールの環境基準は、コイ、フナ等の水生生物が生育する水域として、荒子川から矢田川の6河川で2.0μg/l以下と定められています。また、水生生物の産卵場など特に旱魃が必要な海域として、桑前干潟で0.7μg/l以下と定められています。すべての調査地点で、ノニルフェノールが検測されました。環境基準を十分に下回つていることがわかりました。環境科学調査センターでは、今後もノニルフェノールの定期的な監視を続けています。

⑦最後に

利便性の高い界面活性剤は、私たちの生活には無くてはならない化学物質となっています。一方で、過剰に使用することで水環境や、生息する生物にも悪影響を及ぼしかねないこともあります。水環境や生息する生物に配慮して、界面活性剤を使い過ぎないように注意する必要があります。

参考資料
（1）環境省水・大気環境局公報監視、平成16年度水分溶度測定結果における水質環境基準表示について、環境省、平成24年8月22日
（2）水生生物の保全に係る水質環境基準の項目別監視表示について、環境省、平成24年8月22日

③界面活性剤の種類

界面活性剤は、多くの種類があります。例えば、天然の油脂（ヤシ油や牛乳）は、食用油以外の用途として、皆さんによく使われる石鹼の原料として使用されています。それ以外にも、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩は、家庭用の合成洗剤としてよく使用されています。また、ノニルフェノールエトキシレートは、主に工業用の合成洗剤としてよく使用されています。これらの界面活性剤のほとんどは、人工的に作られた物ばかりですが、大豆などに含まれるサボニンなどのように、界面活性剤と同様な特徴をもつ物質が自然界にも存在することが知られています。このサボニンは、主に食品添加物として広く使用されています。